

戦略の柱①

学校のマネジメント

スモールステップで
かかわりを
深める

振り返る・評価する

改善行動や方策を振り返り、さらなる発展をめざす。

動く・提案する

課題解決、目標達成に向けて、行動を起こす。
方策を提案し、実行に移す。

伝える・共有する

情報を有効に活用できるよう整理し伝える。必要な情報を必要な人へ届ける。
特色、課題の要因を職員間、地域間で共有する。

見る・知る

施設、授業、子ども、地域の様子を直接見る。子ども、保護者、職員、地域住民と話す。
情報を集め、学校の特色、課題を知る。特色、課題の原因を探す(分析する)。

「まずは、校務運営への参画」

自分の仕事を価値づける

①教育環境の改善

- ・機能的な収納、物品管理：教材や事務用品を使用しやすく管理
- ・業務効率の向上：ICTを活用し教育効果を高め、業務内容を改善
- ・同僚性の高い職場：職員室の雰囲気明るくなんでも話しやすい、風通しの良い職場
- ・校内外をつなぐ：人・モノ・金・情報・時間等を活用する

②財務を総括する

- ・適正な会計業務：学校予算、学校徴収金の会計などの様式の統一等システム化し管理する。指導助言する
- ・行政への提案：規則、要領等の改善
- ・教育課程に即した効果的な編成
：納税者の視点に立った、財務編成と評価をする

③俯瞰的な視点

- ・業務改善の提案
- ・主任者会や企画委員会等への参画
- ・経営チームの一員として、行政職の視点を持って経営補佐

④法による組織的な対応

- ・各種制度を理解、運用
- ・情報公開、アカウントビリティ（説明責任）

①共同実施でOJT → 若手・ミドルリーダーの育成

- ・定例業務の事務処理について、書類作成のシステム化や、点検業務の効率化を図る
- ・業務担当を決め、その担当について責任をもって取りまとめる
- ・事例共有により知識を深める
- ・人材育成

戦略の柱②

地域連携・協働の推進

共同実施での 指導・助言・協働

全ての学校に質の高い事務を提供できるように、共同実施組織で、各学校の事務をつかさどる。経験による差異を補う。

「学校は地域の中にある意識を持つ
～地域と学校が一体となって、子どもを育てる環境づくり～」

地域連携からの視点で業務を見直す

①情報の窓口であることを生かす

- ・電話、来校者への対応
- ・地域からの情報を収集・共有

②学校からの情報発信

- ・広報紙、Web、地域に出向く等を通して学校の情報発信
- ・子どもたちが地域と関わりをもてる活動の企画

③公的機関も地域

- ・行政職員として教育委員会等の行政機関との連絡、連携を強化

④業務の一部を担うところから

- ・ボランティアの人材の情報把握・管理、地域交流室の整備など
- ・地域学校協働本部との連絡調整
- ・学校運営協議会の委員：協議会記録、会計等

⑤共同実施の活用

- ・地域人材や行事の情報収集・共有
- ・地域からの要望、情報を集約し、原因等の分析を行い、学校に改善策を提案
- ・共同実施を中学校区の共同学校事務室として位置付け

戦略の柱①・②を実行する
ために必要な資質能力

新しい時代の事務職員にとって必須である積極的に関わっていかうという姿勢が重要

○教育課程等、教育活動に関する知識と理解

○行政職として法令に詳しく、強くなる

○コミュニケーション力
・企画力・調整力
・マネジメント力

ステップアップ

戦略の柱③

専門性のレベルアップ

今まで求められていた専門性
(給与、旅費、財務、庶務、など)

②研修体系

- ・求められる専門性、能力を獲得するための研修

③業務改善

- ・全県的なシステム導入などの検討
- ・全県実施である共同実施組織の有効活用

